

工芸領域概要

芸術学学位プログラム工芸領域はガラス、陶磁、木工・漆芸の3分野からなる。各分野に専門の教員が配置され、造形要素としての素材の特性を知り、選択した材の可能性を活用して、その材だから可能となる表現を追求するために何をすべきかを学ぶためのカリキュラムが構築されている。

講義は工芸概論、木材造形論、材料学などがあり、人類がものづくりを始めた有史以来から近・現代に至るまでの歴史的系譜を知り、素材と人との関係及び特性を学ぶ。各分野（ガラス・陶磁・木工、漆芸）の演習では、基礎課程として、工芸基礎演習（ガラス・陶磁・木工）、陶磁・木工・ガラス基礎演習などで各分野の素材に触れ、それぞれの特性を活かした基礎的な造形技法と表現方法を学ぶ。専門科目である（陶磁造形・木工造形・ガラス造形）演習、（陶磁・木工・ガラス）演習などでは、素材の特性への理解を深め応用技法を学び、各自の造形力を育み創造することの実践と理論を学ぶ。集中授業として工芸特講、ロクロ技法演習、漆芸技法演習などの応用的な演習が開講されている。他の美術系大学にない特徴として、授業を横断的に履修することで、各素材の特徴を学び、他素材を組み合わせること（例えばガラスと陶磁素材を組み合わせた造形、漆とガラスなどを融合させる試み）などが比較的容易に可能となるようにカリキュラムが構成されている。また、芸術系の特徴を活かし、構成（基礎造形的表現）、総合造形（先端的表現）、ビジュアルデザイン（応用的表現）など、隣接領域の授業を横断的に学ぶことで、他の美術系教育にない特色のある工芸領域の造形表現における可能性と理論的思考を学ぶことが可能である。卒業研究に関連して、工芸領域の学生全員で研究を共有するために工芸領域演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（通称工芸ゼミ）があり、工芸領域の教育成果発表展（工芸領域展）などの企画運営も課している。

大学院人間総合科学研究群博士前期課程芸術学学位プログラム工芸領域では、学群での教育を踏まえ、それを発展させるかたちで素材による表現を高度に実現することを目指している。そのため工芸領域特別演習、素材（ガラス、陶磁、木材）造形演習Ⅰ・Ⅱなどの演習を通じ、各分野の技法及び造形表現を深化させつつ、分野を横断しながら主素材と他分野の素材や造形要素を組み合わせることによって可能となる表現を獲得できるようにカリキュラムが組まれている。芸術学学位プログラム特別研究（工芸領域）により、各学生の研究成果を共有し、理論的思考と造形表現の研究成果を相互に発表し確認することで研究の質を保証している、修了研究は作品と論文（研究報告書）の執筆が課されている。（1062）